

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校 令和6年度 自己評価報告書

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
1、教育理念・目的・人材育成像	1-1、理念・目的	1-1-1、理念・目的・育成人材像は定められているか	創設以来「産学共同・現場実践教育」の理念の下、プロとして活躍できる人材の育成は時代に合せて堅持。	企業課題やオーディションなど、適宜カリキュラムの	理念維持のためには事業部はじめ業界との連携は絶対であり対応実務者には最新の有識者が必要。	各学科目指すべき職業の経験者を採用することを進めて来た。また個別に先端技術の習得にも励んでいる。	4
		1-1-2、学校における職業教育の特色は何か	変化の激しいエンタテインメント産業の状況に適切に応えるカリキュラムを準備する。	現役クリエイターの講師や事業部職員から常に情報を入手しカリキュラムに反映している。	メディアの多様化など求められる技術は常に変化多様化しておりカリキュラムの修正は細かく対応が必要。	毎週の職員会議、半期に一度の講師会などで業界傾向は即座にカリキュラム化することを実践。	4
		1-1-3、社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	プロとして就職させる以外に人間的な成長やそのフォローを望むニーズは年々増して感じている。	個人指導が絶対的に必要であり悩みの相談や進路指導などはかなりの時間を費やしている。	業界企業以外の企業情報の収集、メンタルケアなど特殊な技能が職員には一定求められる。	非常勤ではあるが専門職員を採用し個別の案件へのアドバイスや適宜研修を行っている。	4

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
2、学校運営	2-1、運営方針	2-1-1、目的等に沿った運営方針が策定されているか	「産学共同・現場実践教育」実現のため自社事業部の強化は常に取り組んでいる。	既存学科にまつわる企業課題の類は、その一定数を事業部提供のもののみで賄えている。	時代とメディアの変化とともにさらに範囲の広い事業展開が必要となって来ている。	学校と事業部との連携、情報交換の場はオンライン会議の普及などにより担保しやすくなっている。	4
	2-2、情報公開	2-2-1、教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	常に正確に、ありのままに基づいた情報公開していくことを第一の理念としている。	公平、正確に教育活動等は運営がなされており、また情報の開示も各所に行っている。	実習が多いなど一般の教育活動とは相違する点も多く、より掘り下げた情報の開示は必要。	保護者に向けた学校生活の報告などは手紙、ネットワークを通じ告知している。	4

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
3、教育活動	3-1、教育方法・評価等	3-1-1、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	学生の目指す進路実現に向け、現場で必要とされる知識と技能を体系的に習得できるカリキュラムを策定する。	各分野に知見のある教員・講師によるカリキュラムの見直しを毎年行い、学生が目指す業界に則した授業を実施している。	現状、カリキュラムの策定についての問題は無いが、令和6年度から留学生の受入れが始まり、学習面におけるサポート体制の構築が急がれる。	学科担任から報告される留学生状況を基に、学習面や学校生活の面で必要な対策を講じていく。	4
		3-1-2、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	グループ事業部や関連企業の協力を得て、現役のクリエイターによる実践的教育を実施する。	全ての学科で現役クリエイターによる授業を展開し、卒業後は即戦力として活躍できる知識と技能の習得が出来ている。	技術面の指導は整備されているが、就職を見据えた人間力の育成については更なる工夫が必要となっている。	キャリアセンターとの連携による学生への社会人教育の充実を図る。合わせて職員の指導スキルの向上のため専門家による研修を実施していく。	4
		3-1-3、関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行なわれているか	学生の目指す業界関係者からの情報を反映し、最先端のスキルが習得できるカリキュラムを編成する。	業界の第一線で活躍する講師及び教育課程編成委員会委員の助言を得て、カリキュラムの作成・見直しを実施している。	業界の動きを素早くキャッチし、最新の情報に基づくカリキュラムのアップデートを進めていく必要がある。	協力企業や教育課程編成委員会を通じて得た情報をシラバスに落とし込み、業界のニーズを反映したカリキュラムを構築していく。	4
		3-1-4、関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	建学以来の「制作現場こそ最高の教育現場である」という理念の下、「産学共同・現場実践教育」実現の為に環境を整えている。	複数の業界関連企業から派遣される講師の授業を展開することで、現場さながらの実践的な授業が実施できている。	インターンシップに繋がりがづらい学科では、現場経験を踏むチャンスを得づらい学生がいる。	新規企業の開拓等による広範な業界との繋がりを創出することで、学生の現場実習のチャンスを拡げていく。	3

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
4、学修成果	4-1、就職率	4-1-1、就職率の向上が図られているか	本校はエンタテインメント・コンテンツ制作業界を支える人材の育成を目的としており、その集大成ともいえる就職率向上のための取り組みは特に重要と考えている。	1年次から就職ガイダンスを実施しているほか、面談や履歴書添削、面接対策も個別に対応している。令和6年度は学内企業説明会を80社、クリエイター面接（模擬面接）を24社実施し成果につながった。	採用イベントの来校者は、ゲーム企業、アニメ会社 が大部分を占めている。就職率向上のためには、他の業界にも対象を広げていく必要がある。	令和7年度に1期生が卒業する動画・配信クリエイター学科の就職対策として、撮影や編集のスキルが生かせる就職先企業の開拓を進めている。	4
	4-2、卒業生の社会的評価	4-2-1、卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	求人 の斡旋、教員の候補者開拓の観点からも、業界で活躍する卒業生の動向把握は必要と考えている。	令和6年11月にはAMGグループ30周年記念パーティーを開催し、業界の第一線で活躍する卒業生が多数来場した。	作品のリリースや放送によって卒業生の活躍状況は把握しているが、定量的・定性的な評価ができる体制にはなっていない。	卒業生のキャリア形成状況を把握し、教育活動の改善に活用するため、アンケート等を通じた追跡調査を実施予定。	3
		4-2-2、卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	エンタテインメント・コンテンツ業界のニーズに沿った人材育成は、重要な課題と捉えている。	本校の教育システムは、卒業生の所属企業をはじめとした産業界からも高い評価を得ている。	キャリアセンターと企業間の情報交換により卒業生の就業状況は把握しているが、キャリア形成への効果を定量的・定性的に評価できる体制にはなっていない。	卒業生のキャリア形成状況を把握し、教育活動の改善に活用するため、アンケート等を通じた追跡調査を実施予定。	3

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
5、学生支援	5-1、進路・就職等	5-1-1、進路・就職に関する支援体制は整備されているか	教育の集大成ともいえる進路・就職に関する支援体制整備は特に重要と考えている。	キャリアセンターの職員2名が学科ごとに就職ガイダンス、進路面談、企業採用担当との窓口を担当することにより、責任の範囲を明確化している。声優学科は担任が進路オーダーション・就職に関する支援を担当している。	ニーズの多様化により、エリア限定職、副業可、リモートワーク可の求人に関する相談が増加傾向にある。	左記にある求人に加えて、留学生を積極採用している企業との関係を構築する必要がある。	4
	5-2、学生相談	5-2-1、学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	優秀な志願者の入学や学生の就学継続のため、経済事情にあわせた支援情報の提供や、学費納入方法の相談等の経済的支援は不可欠である	志願者には、授業料一部減免を受けられる特待生入学・AO入学・推薦入学等で、優秀な学生の進学を支援しており、オープンキャンパスやホームページ等で制度の周知に努めている。次年度からは、留学生入学についても、授業料の一部免除を実施する。日本学生支援機構構奨学金の奨学金や高等教育修学支援新制度についても、ホームページや奨学金管理システム、書面の掲示など様々な方法を用いて、繰り返し周知している。また、国の教育ローンや教育クレジット等の提案や学費納入延期の相談も行っている。	高等教育修学支援新制度の支援拡大にともない、経済的困窮者の進学や進級につながるのには良いことだが、手続きが難解になっている。また、何度も指導をしないと手続きを進められない学生が一定数いるため、指導の負担は大きい。	職員のさらなる知識の向上に努め、適切で柔軟な支援対応を行う。各種システムを活用し、学生や保護者への情報提供を徹底し、取りこぼしのないよう、教務とも連携して学生指導を行う。	4
		5-2-2、退学率の低減が図られているか	担任による定期面談を実施し、学生状況の把握と問題の早期発見・解決を図る。担任を中心に講師・保健衛生課が連携し、更に保護者を交えて学生のサポートを行っていく。	学科担任との面談により、学生の課題の解決と就職・デビューに向けたモチベーションの維持を図っている。また対面での相談が難しい学生には、学生相談室で相談メールによる対応を行っている。	学科によっては1名の担任制の為、時期によっては対応に時間を要することがある。	担任と保健衛生課スタッフを加えた複数名による対応と相談窓口の多様化により、より適切でスピーディーなサポートが出来る体制を整備していく。	4
	5-3、保護者との連携	5-3-1、保護者と適切に連携しているか	保護者とは必要に応じ電話やメールにより学生状況の共有を行う。また定期学校通信を通じ、学校運営状況を発信していく。	学生状況については速やかに保護者と共有し対策を講じている。また制作発表会等を活用し保護者の来校機会を設け、教育への関心を高めて頂いている。	仕事等の都合等で連絡が取り辛い保護者との連携については、今後手段を検討していく必要がある。	学校行事等の案内や定期通信の發送頻度を増やす事で、学校運営情報の発信に努めていく。保護者の学校への理解を深めて頂き、連携して学生の目標実現のサポートに取り組んでいく。	4

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
6、教育環境	6-1、施設・設備	6-1-1、施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	学生が目指す業界の現場に近い教育環境を整えている。	毎年度、施設・設備の更新を継続している。	一部、アップデートの必要な設備が見られるため、早急に改善を講じていく。	施設・設備の更新の頻度を高めていく。またICT機器の配布教材化などを視野に入れ検討を行う。	3
		6-1-2、学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	建学以来の「産学共同・現場実践教育」の理念に基づき、グループ事業部が制作する作品に学生を参加させ、現場実習を充実させる。	グループ事業部が制作するコンテンツ及び外部企業の協力を得て、多くの学生が作品出演や企業での実習に参加ができています。尚、海外研修については実施検討はない。	目指す業界の特性上、現場実習に繋がり辛い学科もあり、現場経験のチャンスに偏りが見られる。	業界とのパイプを活かし、従来チャンスの少なかった分野でのインターンシップ創出に努めていく。また学内でも、これまで以上に現場を反映した教育環境の整備に努めていく。	4
		6-1-3、防災に対する体制は整備されているか	学生や職員の安全のため、万全な避難計画や備えが必要である	年1回、火災を想定した避難訓練を実施している 備蓄物資も徐々にそろえている	地震等、大規模災害に備えたマニュアル作成と備蓄品の充実	防災マニュアルの作成、備蓄物資の充実化につとめる	4

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
7、学生の受入れ募集	7-1、募集活動	7-1-1、学生募集活動は、適正に行われているか	入学希望者および保護者には、エンタテインメント業界における具体的な就職状況や仕事内容についての情報提供を積極的に実施し、不本意入学等のミスマッチが無いように努めている。	進学ガイダンスや中高生対象の独自出前授業にて進路サポートを行っているほか、オープンキャンパス内での業界クリエイターによる職業体験など真実性のある説明を実施している。更に、進学代理店や協力企業と小中高生対象の職業発見イベントを外部施設で開催するなど、中高生の職業理解を支援する取り組みを積極的に行っている。来校者満足度調査において一定の評価を得ていることから適切であると判断する。			4
		7-1-2、学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	入学希望者と保護者が十分に判断できる材料を提供するために、真実性や明瞭性・法令遵守に配慮した情報の開示・公開を実施している。	卒業生の活動状況や在校生の就職実績速報を学校パンフレットやホームページなどWEB上での情報掲載・説明を実施していることに加えて、職業体験イベント等に卒業生クリエイターを積極的に起用するなど、広範囲での情報提供に努めている。			4
		7-1-3、学生納付金は妥当なものとなっているか	就職先である業界の状況や社会情勢等に即した金額の検討および決定が必要であると考えている。	主には関西圏における専門学校の状況や分野の基本的な水準を踏まえた学納金設定を行っている。	学納金設定に関しては、受験者の利便性向上を目的としたシステム導入による受験環境の充実化と、在校生の進路実現に必要なスキルを身に付けるための学習環境の整備を図るために、真実性・具体性・明瞭性の更なる追及が課題だと考える。		4

【4】適切・【3】ほぼ適切・【2】やや不適切・【1】不適切

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
8、財務	8-1、財務基盤	8-1-1、中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	安定的な学生募集を継続し、財源の確保を確実なものにしつつ財務基盤の充実を図る	入学者の減少傾向を踏まえて、より効率的な学校運営をこころがけねばならない	高校生人口の減少を踏まえ、法人内での学校枠の拡大を行う必要がある	学生募集の多角化、分野領域の拡大や、より一層の留学生の受け入れなどを進めていく	4
	8-2、予算・収支	8-2-1、予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	収支計画とその運営については、寄附行為および経理規程の定めに従った手続きが踏まれている	学校拡大の取り組み、準備を織り込んだ柔軟性に富んだ予算編成と執行が求められている	高校生人口の減少を踏まえ、予算・決算に基づく適切な執行に努めなくてはならない	引き続き収支見通しの変化予測と、それに対応し得る運営管理に努めて行きたい	4
	8-3、監査	8-3-1、財務について会計監査が適正に行われているか	常勤監事が、理事会運営や会計管理に常に注意でき体制を整備している	常勤監事は理事会出席出来ており、会計処理、財産の管理、理事会運営などに問題は出ていない	次年度は役員の変更があり、新しい運営体制になる	新体制下でも円滑に、諸法規が遵守されるよう取り組む	4
	8-4、財務情報公開	8-4-1、財務情報公開の体制整備はできているか	学校法人としての情報公開の定型が定まって来た。着実に順守して行きたい	適切な情報公開が行われている	特に問題はないが、業務処理を効率化させたい	財務情報の確実な公開のためにも、作業の見直しなど効率化を進めていく	4

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
9、法令等の遵守	9-1、学校評価	9-1-1、自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	毎年、自己評価の実施および自己評価報告書を作成し、学校運営の改善を図ることを方針としている。	自己評価委員による自己評価報告書の作成と、新入生対象アンケートを実施し、課題点の抽出と改善に繋げている。			4
		9-1-2、自己評価結果を公開しているか	毎年、自己評価報告書を作成し、学校ホームページに公開・情報更新することを方針としている。	学校ホームページで公開している。			4

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
10、社会貢献	10-1、社会貢献・地域貢献	10-1-1、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	自治体・公共機関・企業・中学校・高校等との専門分野を通した社会貢献・地域貢献活動を積極的に行い、地域社会に信頼される専門学校を目指していきたいと考えている。	例年、声優学科学生が担当している淀川区成人式総合司会や大阪府警察署との取り組みに加え、万博東成区出展レガシー映像制作及び放映業務委託事業者選定委員会にかかる選定委員に本校職員が委員として参加するなど、中学校や高等学校への職業に関する活動を中心に分野を問わず広く積極的に取り組んでいる。			4

大項目	中項目	小項目	考え方・方針・目標	現状	課題	今後の解決方向	点検評価
11、国際交流	11-1、留学生の受入れ募集	11-1-1、留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	国籍問わず、業界のプロを目指すために意欲的かつ積極的に学業に励む事ができる人材を広く受け入れ、エンタテインメント産業の発展に貢献していきたいと考えている。	留学生からの資料請求やオープンキャンパス参加、オンライン相談などに対して、相談者の状況に即した個別対応や情報提供を行っているほか、留学生対象説明会において、在校生による学校生活の説明を通して、正確な情報提供に努めている。また、日本語学校への訪問活動や日本語学校教員向けの業界就職ガイダンスを実施するなど、多方面への情報発信に取り組んでいる。			4
		11-1-2、留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	文部科学省「外国人留学生の在籍管理の徹底に関する新たな対応方針」に基づき、適正校として認められるように適切な在籍管理と手続き対応を行いたいと考えている。	監督省庁の基準に準拠しながら適切な手続きを進めていく。	在籍管理や事務手続きに関する対応実績・経験値がまだまだ乏しい。	外国人留学生の留学審査手続きと申請取次にかかる研修会など、学校職員対象の研修会へ積極的に参加し、担当職員の対応力強化と受け入れ体制の整備を引き続き進めていく。	3
		11-1-3、留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整理されているか	グローバル社会で通用する人材育成を目的に学生の進路実現に向けた学習環境とキャリアサポート体制の確立を目標としている。	日本人学生同様のものを適用しており、特にキャリアサポートに関しては実績面含め充実している。生活指導・学校生活におけるサポート体制についても、担当者を立てるなど体制の整備を進めつつある。	学習指導や生活サポート体制における対応実績・経験値がまだまだ乏しい。	外部アドバイザーの協力と指導を受けながら、教務部・キャリアセンターとの連携を強化し、適切な学習指導及び進路サポート体制の整備と確立を目指していく。	3